

# 共通語彙基盤(IMI)事業進捗状況

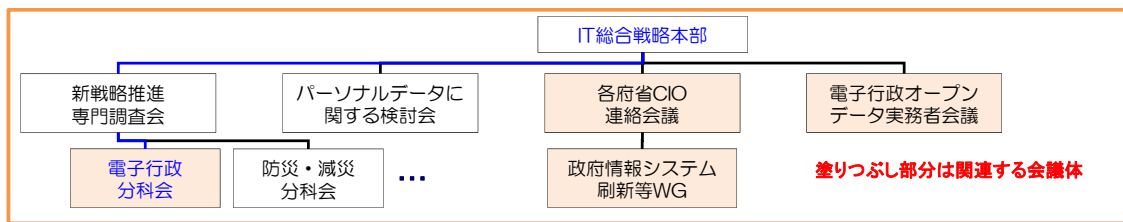
2015年度

情報処理推進機構

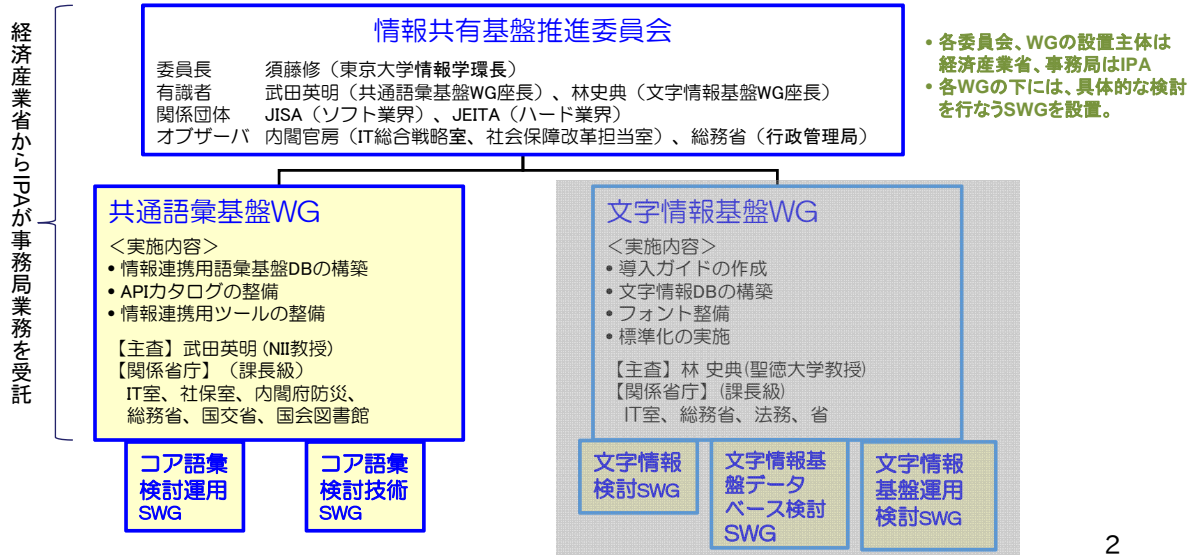
1

## 検討体制

IPA



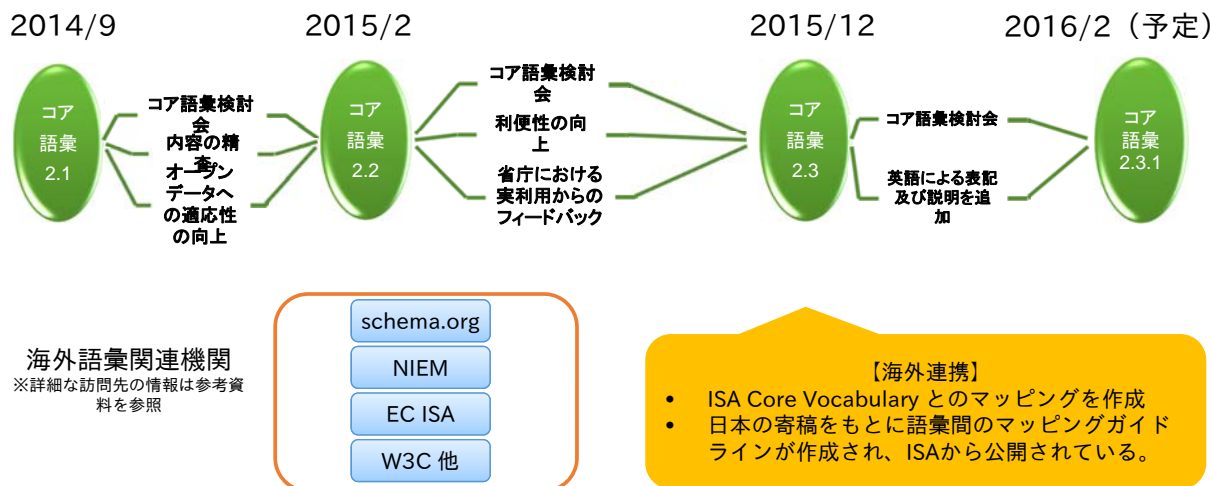
協力依頼 ↓ ↑ 報告



2

# 「コア語彙」の開発状況

コア語彙2.3では、法人ポータル、農林水産分野の語彙整備など省庁における実利用現場、自治体からのフィードバックを元に語彙の拡充を行った。  
さらに、英語による表記や説明を追加したコア語彙2.3.1を近日公開予定。



# コア語彙SWG実施状況

1	2015/4/17	運用	コードリスト整備の優先順位、農水語彙のサポート体制など
2	2015/6/12	運用	語彙関連イベント実施について
3	2015/7/17	運用	METI側事業(農水等)の状況、ドメイン語彙について
4	2015/8/28	運用	IMI共通語彙基盤の課題整理、IMIへの適合(ロゴプラム)について
5	2015/9/18	運用	METI側事業(農水等)の状況、IMIロゴの必要性などについて
6	2015/10/7	運用	METI側事業(農水、法人ポータル等)の状況、IMIロゴ
7	2015/11/9	運用	METI側事業(農水、法人ポータル等)の状況、IMIロゴ
8	2015/12/9	運用	METI側事業(法人ポータル等)の状況、4月以降のイベント実施について
9	2016/1/19	運用	ドメイン語彙(法人ポータル、農業語彙)、語彙利用ツールについて
10	2016/2/12	運用	ドメイン語彙運用に向けて検討
1	2015/3/27	技術	データ交換用XMLスキーマ、データテンプレートの仕様
2	2015/4/10	技術	マッピングテーブル、英語資料、コア語彙2.21進捗確認、RDFIにおける追加制限について
3	2015/4/24	技術	マッピングテーブル及び文書の確認
4	2015/5/15	技術	マッピング再評価
5	2015/5/22	技術	語彙データベース機能検討
6	2015/6/5	技術	ISAへのレスポンス、コア語彙2.2.1について
7	2015/6/19	技術	コア語彙の単位表記について
8	2015/6/26	技術	コア語彙の単位表記について
9	2015/7/10	技術	コードリストの扱いについて
10	2015/7/24	技術	コードリストの扱いについて
11	2015/8/7	技術	コードリストの扱いについて
12	2015/8/21	技術	コードリストの扱いについて
13	2015/9/8	技術	コア語彙2.3、コードリストについて
14	2015/9/29	技術	コア語彙2.3について
15	2015/10/9	技術	コア語彙2.3について
16	2015/10/23	技術	コア語彙2.3について
17	2015/11/13	技術	コア語彙2.3について
18	2015/11/20	技術	コア語彙2.3について
19	2015/12/22	技術	コア語彙2.3の英語表記について
20	2016/1/8	技術	コア語彙2.3の英語表記について
21	2016/1/22	技術	コア語彙2.3.1の確認
22	2016/2/16	技術	コア語彙2.3.1の最終確認とコア語彙2.4.1に向けての課題整理

自治体職員や自治体のシステムやデータマネージメントを請負う技術者を対象とした共通語彙基盤を用いたデータの作成を支援するツール

- 新たにデータ構造を設計することなく、共有されているデータ構造を利用することで、簡単に構造化されたデータを作成することができる。
- データ構造を作成する場合であっても、表の各項目をコア語彙の用語に関係付けるだけで行うことができ、RDFやXML等の技術に詳しい必要はない。
- このツールにより下記のことを行うことができる。

- ・ コア語彙を用いたデータ構造を新規に作成
- ・ 表形式データを元にデータ構造を作成
- ・ 表形式のデータをコア語彙を用いたデータに変換
- ・ データ構造の公開と共有
- ・ データクレンジング



## 地方説明会の開催

- 自治体オープンデータ推進協議会共催イベント
  - ・ 2015年6月22日 大阪
  - ・ 武田英明氏 共通語彙基盤コア語彙2 (Ver2.2)の紹介

### ■ 情報の価値を最大化する「共通語彙基盤」セミナー ～ “つながる” データ “つながる” システム～

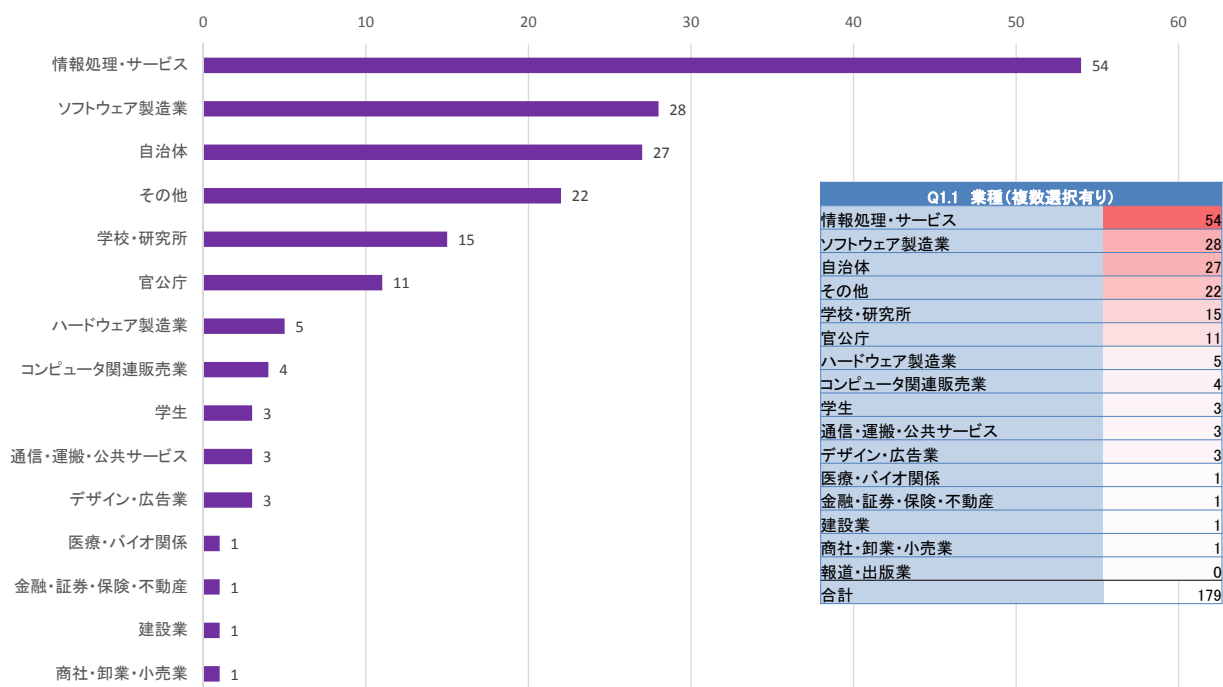
- ・ 「共通語彙基盤」の進捗報告と今後に向けた展開

- ・ 先進自治体での事例を交えて、どのようにして「データ」を活用していくか、「表からRDF」のデモを交えつつ説明

- ・ 北海道森町 山形 巧哉氏 (札幌会場)  
森町のオープンデータの現状と対応策  
→ 自治体現場での活用の参考になったと好評

日時	場所	参加者
7月14日	福岡	約60名
9月3日	仙台	約40名
9月4日	札幌	約40名
9月11日	大阪	約40名
9月17日	新潟	約60名

説明会（福岡・仙台・札幌・大阪・新潟）の参加者の業種



## ロゴ、キャラクターの制定

2015年12月公開

- 経済産業省が委託事業により二次利用も含めた著作権の譲渡を前程として公募
- 商標登録申請をIPAにて準備中



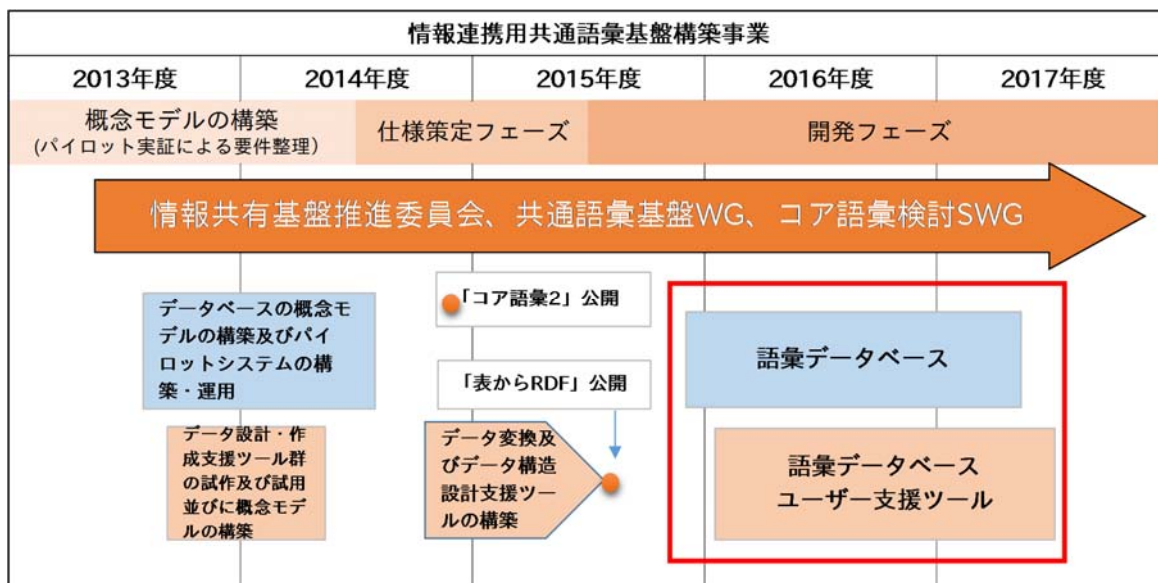
### ロゴ

シンプルなフォルムの中に「先進性」「プロフェッショナル性」「グローバル感」が感じられます。「M」の一部が重なることで、人と人のコミュニケーションを連想させ、国際会議の場でも文化の壁を越えた親しみやすさ、わかりやすさを感じられます。



### キャラクター

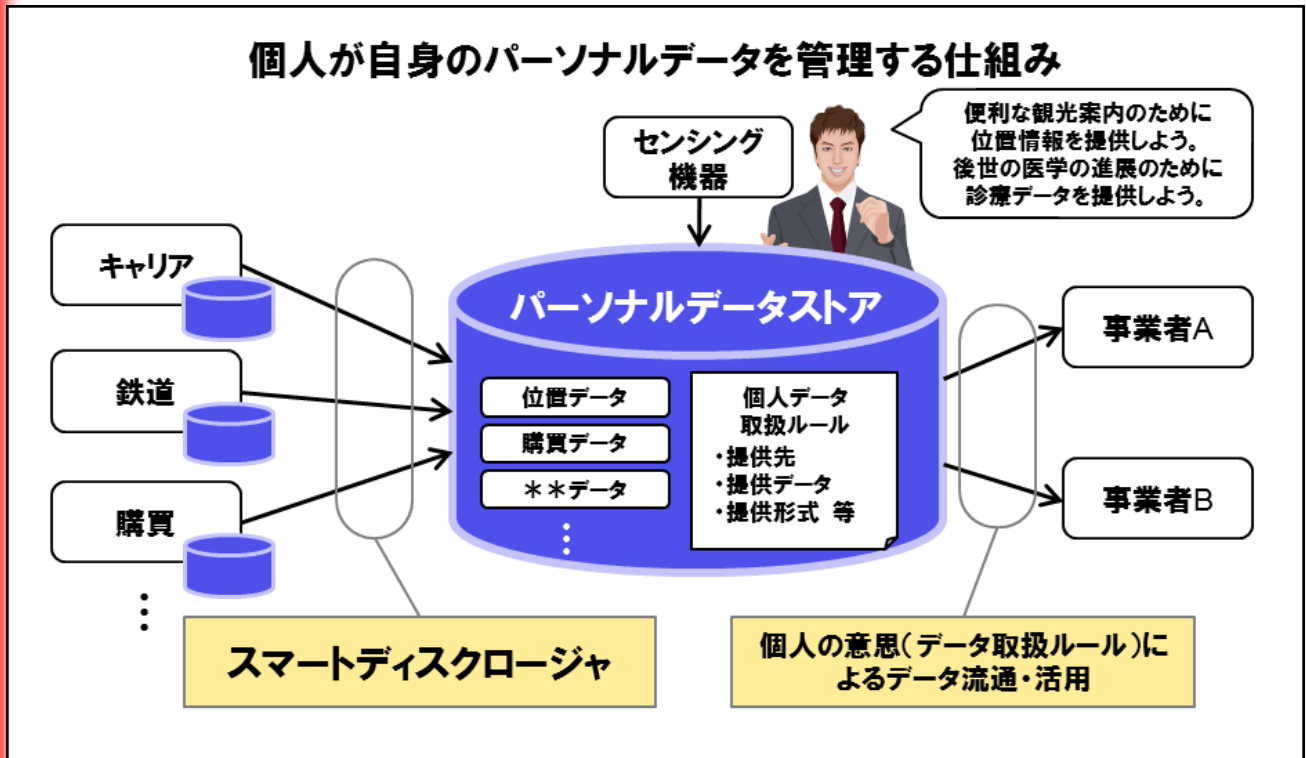
ゴリラをモチーフにしたキャラクターで名前は「ゴイラ」です。ゴリラと語彙を組み合わせたネーミングです。目と鼻がIMIの形になっています。丸い三色のお腹は、コア語彙、ドメイン共通語彙、ドメイン固有語彙を表しています。



- 車両間、車両と公的情報との連携などのため、メタデータやデータ構造の標準化の必要性を認識
- TC204/WG1が、規格に出てくるデータ交換について情報の収集と整理を開始
- 2015年10月に開催されたTC204会議で語彙基盤を紹介
  - 今後の連携可能性を検討開始



個人情報管理の新しい枠組み作りにあたって、語彙の標準化が重要



産業競争力懇談会 「IoT時代におけるプライバシーとイノベーションの両立」 報告書より

データマネジメント2016で講演（予定）

## データマネジメント2016

～データ駆動こそがビジネスを創る～

**2016年3月11日(金)**

目黒雅叙園(東京都)

主催：一般社団法人 日本データマネジメント・コンソーシアム **事前登録制・無料**

C-3

11:40 ~ 12:20

情報の価値を高める「共通語彙基盤 (IMI)」  
その必然性を明かす

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)  
技術本部 国際標準推進センター  
参与/国際標準推進センター長  
田代 秀一 氏



「世界最先端IT国家創造宣言」という安倍政権の閣議決定の下、政府や自治体を持つ公共データを再利用性の高い「オープンデータ」として提供する取り組みが始まっています。しかし、それを生かすには前提条件があります。データの構造や項目名などを定義したテンプレートをあらかじめ用意し、共有することにより、効率的で誤りのないデータ交換を可能にする「共通語彙基盤 (IMI)」の利用がその1つです。単に語彙を共通化するだけでなく、IMIを使えばデータ構造を設計する手間やコストを削減でき、活用のためのアプリ開発も容易になります。昨年2月の公開以来、経済産業省が近く公開する「法人情報ポータル」や、いくつかの自治体で活用が始まっていますが、新しいものだけに十分に認知されているとは言えません。そこで本講演では、共通語彙基盤 (IMI)の仕組み、活用の実例、海外での取り組み、国際協力の状況などについて紹介します。IMIを活用し、情報の整理、共有、公開を効率的で価値あるものにしてゆきましょう。

- 欧州委員会主催SEMIC会議（ラトビア）の基調講演で、共通語彙基盤を紹介(2015年5月)
- 欧州各国、米国、日本が参加する Community of Practice on Core Data Models で、各語彙のマッピングについて検討。
  - Guidelines for mapping core data models のドラフトを作成中
- 欧州委員会主催 ISA to ISA2会議（ブリュッセル）で共通語彙基盤を紹介(2016年3月)

13

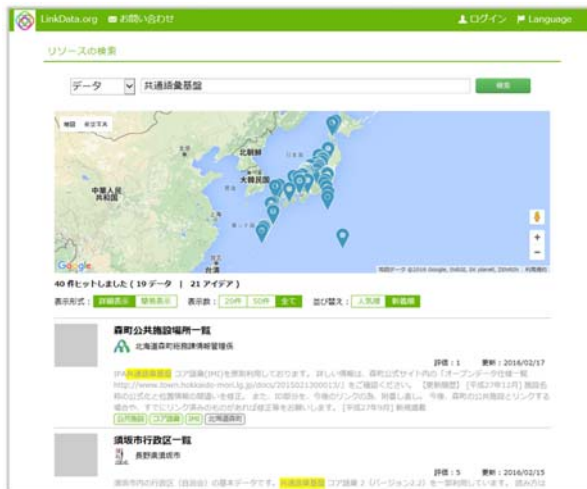
## 共通語彙基盤を活用する自治体が増加中

- オープンデータの公開にあたり、コア語彙を用いる自治体
  - 北海道森町、北海道八雲町、長野県須坂市など
- オープンデータに関わる業務委託等において、共通語彙基盤を要件とする自治体
  - 大阪市、宮城県など
- その他、自治体内部での情報共有のための利用や、各自治体の広報誌のデータへの適用などの検討が進められている。

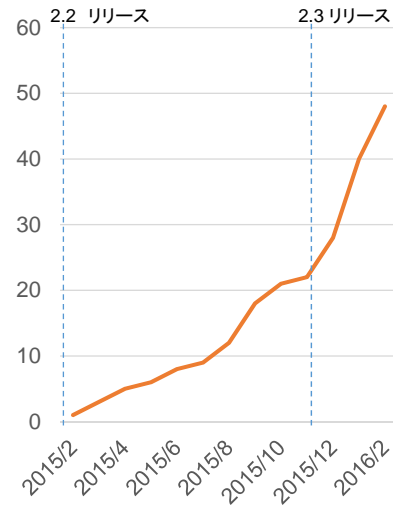


14

LinkData.org (オープンデータの作成・公開を行うサイト)では、40を超える共通語彙基盤を活用したリソース（自治体によるオープンデータ、オープンデータを活用したアプリケーションなど）が登録されている。



LinkData.org



IMI活用リソースの登録数

## ツール「表からRDF」の活用状況

### 活用状況

- 自治体職員、大学関係者、システムインテグレータ等、23名がデータ構造の作成・登録に必要なユーザー登録を行っている
- ユーザー登録者内訳は、自治体職員13名、他10名

